

女性の視点に立ったまちづくりを考える

## 令和7年度「女性の集い」を開催

「未来を築くのは女性の笑顔と元氣」をテーマに、町女性団体協議会（土屋ひとみ会長）主催の「女性の集い」が3月7日、町社会老人福祉センターで開催されました。

地域の課題や社会問題、未来のまちづくりについての理解を深めようと毎年行われているもので、今年は各自治会などから約200人が参加。町包括支援センターの小濱あさき主任介護支援専門員による講話「ちよと気になるMCI（軽度認知障害）」や、地域みらい留学制度で道外から弟子屈高校に入学した山路尚太郎さんと同校地学協働コーディネーターの萩原寛樹さんによる「弟子屈生活をふりかえって」と題したトークが行われました。

引き続き同会場で行われた町教育委員会主催の生涯学習講演会では、町内で不登校生支援を行っている認定NPO法人ダルボイ・アカデミー（金井祐真代表理事）の関係者ら8人が、「命に火をつける教育」50年の歴史と、移住した私たちが目指す夢」と題し、これまでの取り組みや今後の事業展開について話しました。

それぞれの貴重な話に参加者は真剣に耳を傾け、住みよいまちづくりについて思いを巡らしていました。



軽度認知症について話す小濱さん



弟子屈での体験を語る山路さん（右）と萩原さん（左）



ダルボイ・アカデミー関係者らによる合唱

### 町の話題



CloseUp Topics

### 地域限定の新ワイン

## 4月18日「テシカ」シリーズ2種発売



左から「テシカ赤2025（町民農園）」、「テシカ川湯ロゼスパークリング2025」

屈斜路カルテラワイナリーを運営する㈱テシカファーム（上村剛志代表取締役）が、2025年の新ワイン「テシカ」シリーズの発売を発表しました。

今回発売されるのは、町民農園（弟子屈市街地）産「テシカ赤2025（町民農園）」と、川湯地区産「テシカ川湯ロゼスパークリング2025」の2種。それぞれの地区で栽培したブドウ「山幸」を使用しています。屈斜路地区と比較し冷涼な気候で栽培された「山幸」を使用した今作は、いずれもアルコール度数が控えめで、普段ワインを飲まない方にもおすすめの軽やかな味わいです。

町民農園では、平成24年より「山幸」の試験栽培を続けてきましたが、木や資材の老朽化から昨年で栽培を終えたため、今年が最後の町民農園産「テシカ」となります。醸造責任者の木龍奈津子取締役は、「町民農園があつたからこそ屈斜路のワインが完成した。本当に感謝している。」と、これまでを振り返りました。また、昨年7月に地域おこし協力隊としてワイン事業推進支援員に着任した小林徹隊員は、「栽培から醸造まで全工程に携わったワインの完成は非常に感慨深い。」と感動を口にしています。

各ワインの販売店は、同ワイナリーのホームページなどでご確認ください。



ワインを手にする木龍取締役（右）と小林隊員（左）



ワイナリーリンク先

カメラスケッチ  
広報マンが行く!!

このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにつけられます。お気軽にご連絡ください。

まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913（課直通）

3月17日

### シマエナガの魅力を図書館で特集展示「シマエナガの伝道師のお仕事」



シマエナガの伝道師として知られる自然写真家の山本光一さんから、町図書館へ自著6種15冊が2月27日に寄贈され、これに合わせた特集展示「シマエナガの伝道師のお仕事」が3月17日、同図書館に新設されました。

寄贈図書には「図書館員がえらぶ選書センター大賞2025小学校部門絵本1位」に選ばれた「あいたいなシマエナガ」などが含まれ、山本さんは「この展示を通して命の大切さや自然の素晴らしさを伝えたい。」と語りました。特集展示は5月31日まで行われます。

3月17日

### 歌って楽しいひとときをカラオケ交流会を実施



ステージに上がり歌う利用者

養護老人ホーム倅和園（丹羽好文園長）とJ A北海道厚生連特別養護老人ホーム摩周（高石和恵施設長）が3月17日、カラオケ交流会を実施しました。

今年で3回目となる本交流会では、利用者や職員の計11人が舞台上で歌を披露し、両施設からの参加者約50人が歌声に聴き入っていました。会場からは手拍子や歓声、アンコールの声などが聞こえ、皆さん大いに盛り上がり楽しい時間を過ごしました。

3月22日

### スポーツとアートの融合イベント「Pop Art Teshikaga」初開催



出演者全員によるエンディング

ダンスやパントワリング、音楽、伝統芸能など、スポーツとアートを掛け合わせたイベント「Pop Art Teshikaga」（同実行委員会主催）が3月22日、摩周観光文化センターで開催されました。

イベントには12団体が出演し、多様なパフォーマンスを披露。弟子屈をテーマにした魔材アート展示や、車の魔材から作られた絵の具を使用するディンプルアートで、町の風景を制作する参加型の企画も行われました。

関係者を含め600人以上が一堂に会した本イベントは、「観る」「造る」「表現する」など、さまざまな形で楽しめました。

4月10日

### 交通安全事故ゼロを目指し旗の波街頭啓発運動を実施



沿道で旗を掲げる参加者たち

町交通安全運動推進協議会（徳永哲雄会長）と町交通安全協会（村岡幸雄会長）は、「交通安全事故ゼロを目指す日」の4月10日に合わせ、摩周観光文化センター前で旗の波街頭啓発運動を行いました。

同運動は交通安全意識の向上を目的に毎年実施しており、関係者など約70人が参加。沿道に並び「交通安全」と書かれた旗を掲げ安全運転を呼びかけたほか、弟子屈警察署（齋藤淳一署長）協力の下、通行車両のドライバーに啓発品を配布しました。

4月17日

### 観光客と通行車両の安全を願い摩周湖安全祈願祭を開催



摩周湖を訪れる方々の安全を祈願

（社）摩周湖観光協会（渡辺隆幸会長）は4月17日、摩周湖カムイテラスにて摩周湖安全祈願祭を行いました。

祈願祭は、冬季間通行止めとなっていた道道52号屈斜路摩周湖畔線「摩周湖硫黄山スカイロード」のルート開通に合わせて毎年行っています。今年は吉備津副町長や高橋町議会副議長など、関係者14人が参列。渡辺会長は「安心安全な地域づくりのため、しっかりと安全対策を続けていきたい。」と話していました。